

# 「風水害への備え」を考えるワークシート

—第4学年社会科教材—

Preparing for Storm and Flood Damage Worksheet:  
Social Studies Teaching Materials for 4th Grade Elementary School Students

田並 尚恵\*1

## 要 旨

本研究の目的は、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要としている児童の学びを保障する社会科教材として、TEACCH自閉症プログラムの視点をもとにした「風水害に対する備え」を考えるワークシートを提案することにある。ワークシートは、児童が日頃から備えることの重要性を理解し、自分たちができることを考え、必要な物を選択・判断できるようにするために、避難する時にどのような物を準備する必要があるのかを考える内容にした。ワークシートは、ASD児が理解しやすいように持ち物を限定し、4つのカテゴリーに分けて視覚的な整理統合を図った。持ち物のリストは、文字とイラストを一緒に表示し、選ぶ基準を見本で示すことにより視覚的な明確化を図った。学習のまとめとなるワークシートは、実生活でも役立つよう視覚的に全体を見通せるリストにした。ASD児にとって理解しやすい教材は、多くの児童にも理解しやすい教材になると考える。

**Keywords** : 防災教育, TEACCH自閉症プログラム, 風水害, 水害対策,  
授業のユニバーサルデザイン  
disaster prevention education, TEACCH Autism program, storm and flood damage,  
flood damage measures, universal design for learning

## 1. はじめに

自然災害の多い我が国では、学校現場において、学校安全<sup>†1)</sup>と教科教育の2つの側面から防災教育が推進されてきたが、2011年の東日本大震災以降、防災教育の重要性が一層認識されるようになった<sup>1)</sup>。「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」が2011年9月に取りまとめた中間報告において、今後の防災教育の考え方と施策の方向性として、①自らの危険を予測し、回避する能力を高める防災教育の推進（具体的には、主体的に行動する態度の育成と防災教育の基礎となる基本的な知識に関する指導の充実）、②支援者としての視点から安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高める防災教育の推進が示された<sup>2)</sup>。2013年改訂の「学校防災のための参考資料『生きる力』を育む防災教育の展開」では、小学校段階の防災教育の目標として「日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにすること」と「他の人々の安全にも気配りできるようにすること」が示された<sup>3)</sup>。藤岡によれば、2017年告示の小学校学習指導要領では総則

---

\*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

に安全教育が記載され、理科、社会科などの各教科において自然災害の記載が増加した<sup>4)</sup>。それに伴い教科書のページ数も増加した<sup>5)</sup>。このような防災教育の推進により、学校現場では、社会や理科といった各教科での学習に加え、総合的な学習の時間や特別活動等を活用した教科横断的な防災教育の実践が求められている<sup>1)</sup>。岡田・矢守は、総合的な学習の時間は、主体的に行動する態度や支援者としての視点の育成という点で強みがあるが、必要な知識の習得については教科教育に頼らざるを得ないこと、逆に教科教育は、知識の習得は達成できても主体的な行動や態度の育成などは困難であることを防災教育の課題として指摘している<sup>5)</sup>。このことから、防災教育の目標である主体的に行動する態度や支援者としての視点の育成と知識の習得の両方を達成するためには、総合的な学習の時間と教科教育とがそれぞれ補完的な役割を果たす必要があると考える。

一方、2017年告示の小学校学習指導要領には、「主体的・対話的で深い学びの表現に向けた授業改善」と、すべての教科に対して「障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと」の文言が加えられた<sup>6)</sup>。小貫は、これらの改訂には特別な支援を必要とする児童を含む学級内のすべての児童がわかる・できる授業を目指す「授業のユニバーサルデザイン化」が求められていると指摘している<sup>7)</sup>。文部科学省の2022年の調査によれば、通常学級に在籍する小中学生のうち、学習や行動面で著しい困難を示す児童生徒が8.8%、著しい困難を示すとされる基準には達していないが、基準近くに分布している児童生徒が一定の割合でいることが明らかになった<sup>8)</sup>。この調査結果は、発達障害のある児童生徒の割合を直接示すものではないが、通常学級に特別な教育的支援を必要としている児童生徒が一定数いることを示唆している。現在、前述した防災教育の推進により、数多くの教材が開発されているが<sup>1)</sup>、それらは果たして特別な教育的支援が必要な児童の学びを保障したものになっているのだろうか。本研究では、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要としている児童の学びを保障できるような社会科の教材として、TEACCH自閉症プログラムの視点から「風水害に対する備え」を考えるワークシートを提案したい。TEACCH自閉症プログラムは、アメリカ・ノースカロライナ大学医学部によって設立された自閉症およびコミュニケーションにつまづきをもつ子どものための治療教育である。同プログラムでは、自閉スペクトラム症の児童（以下、ASD児とする）の行動特性に基づいたさまざまな教育上の工夫が行われている<sup>9)</sup>。

## 2. 単元の選定理由

今回、取り上げるのは、第4学年社会科「自然災害から人々を守る活動」である。2017年告示の小学校学習指導要領において、単元の内容は、以下の通りである（p.50-51）<sup>6)</sup>。

- (3) 自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

(イ) 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

この単元を選んだ理由は、2点ある。まず、岡山県内では、風水害<sup>†2)</sup>の発生が最も多いことがあげられる。2017年告示の小学校学習指導要領の「内容の取り扱い」では、「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から、過去に県内で発生したものを選択して取り上げること」(p.52)とされており<sup>6)</sup>、風水害を取り上げることが適切であると考えた。次に、倉敷市での防災教育の推進があげられる<sup>10)</sup>。倉敷市は、平成30年7月豪雨(西日本豪雨)の被災地の一つであり、逃げ遅れによる犠牲者が多かったこと、ハザードマップの被害と実際の被害が一致していたことなどから、児童が災害に対して「わがこと意識」を持つことができるように、2020年からすべての市立小学校の第3学年と第5学年において、総合的な学習の時間として年3時間程度の防災教育を実施している<sup>11)</sup>。第3学年は、ハザードマップの見方を学び、「防災安全マップづくり」として登下校中に災害が発生した場合を想定した避難経路をまとめる<sup>12)</sup>。第5学年は、風水害から命を守るために情報を収集し、避難するまでに必要な行動を時系列で整理しておく「マイ・タイムライン」を作成する<sup>13)</sup>。これらの学びを通して児童が「自助」を身につけることを目指している。このような総合的な学習の時間の取組みと教科教育との連続性を持たせることで、防災教育の目標が達成できると考えた。

### 3. 単元を学ぶことの難しさとその対応

2017年告示の小学校学習指導要領解説社会編には、障害のある児童への配慮として、以下の事項が示されている(p.139-140)<sup>14)</sup>。

地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合には、読み取りやすくするために、地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し、視点を明確にするなどの配慮をする。

社会的事象に興味・関心がもてない場合には、その社会的事象の意味を理解しやすくするため、社会の営みと身近な生活がつながっていることを実感できるよう、特別活動などとの関連付けなどを通して、具体的な体験や作業などを取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるよう配慮することなどが考えられる。

学習問題に気付くことが難しい場合には、社会的事象を読み取りやすくするために、写真などの資料や発問を工夫すること、また、予想を立てることが困難な場合には、見通しがもてるようヒントになる事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにすること、そして、情報収集や考察、まとめの場面において、考える際の視点が定まらない場合には、見本を示したワークシートを作成するなどの指導の工夫が考えられる。

このように、障害のある児童への配慮としては、社会の営みと身近な生活とのつながりを感じられるよう具体的な体験や作業を取り入れた授業の展開が求められている。また、学習内容の順序立てや資料の作成の工夫なども必要であるが、これらの対応としては、TEACCH自閉症プログラムの「構造化された指導法」のうち、「視覚的スケジュール」と「視覚的構造化」が有用であると考え<sup>9)</sup>。「視覚的スケジュール」(p.72-74)は、活動の順序を視覚的に示すことである<sup>9)</sup>。「視覚的構造化」(p.80-83)には、絵や写真などで視覚的に指示すること(視覚的指示)、教材などを課題ごとに整理する、課題を区切ることで視覚的に整理統合化を行うこと(視覚的整理統合化)、課題を視覚的に識別できるようにし、数を限定することで明確化を図ること(視覚的明確化)がある<sup>9)</sup>。

#### 4. 教材の選定理由

本研究では、「自然災害から人々を守る活動」の単元の「今後想定される災害に対し、様々な備えをしていること」(p.51)<sup>6)</sup>に着目した。2017年告示の小学校学習指導要領解説社会編には、内容の取り扱いとして「災害が起きたときに自分自身への安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちにできる自然災害への備えを選択・判断したりすることができるよう指導すること」(p.62)とある<sup>14)</sup>。橋本は、同単元の学習内容は、単なる知識にとどまらず、災害が発生した時に自分の身を守るすべとなること、地域で起こりうる災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考え、選択・判断できるようにしなければならないと指摘している<sup>15)</sup>。前述した障害のある児童への配慮をふまえると、避難する時に持って行く物を考えることで、児童は災害を身近なものとして捉えることができ、日頃から災害に備えておくことの大切さを理解する契機になると考えた。

#### 5. 教材に関する先行研究








非常用持ち出し袋に入れる物を考えるというテーマは、主に家庭科や総合的な学習の時間に多くの小学校で取り組まれており、そのために開発された教材が、いくつか確認できた。

神戸学院大学現代社会学部社会防災学科では、学生が考案した家庭科の学習指導案と教材(カード)を提供している<sup>16)</sup>。学習指導案は、持ち物がイラストで描かれた37枚のカードを使用し、3日間を生き抜くために必要な物を9つ選び、選んだ理由を児童が考える内容となっている<sup>16)</sup>。熊本県は、総合的な学習の時間での防災教育を想定したワークシートと学習指導案を提供している<sup>17)</sup>。ワークシートは、非常用持ち出し袋の中に入れる物を、文字

表示のみの持ち物リストから 6 つ選び、選んだ理由を記入するようになっている<sup>17)</sup>。防災教育の啓発活動を行っている宮崎は、小学校低学年からできる防災教育の教材としてワークシートと学習指導案を提供している<sup>19)</sup>。宮崎のワークシートには、イラストと文字で表示された 33 個の持ち物が載っており、学習指導案は、ワークシートに記載されている持ち物から自分と家族に必要な物を 10 個選び、選んだ理由を発表する内容になっている<sup>19)</sup>。だが、これらの教材には、TEACCH 自閉症プログラムの視点は取り入れられていない。通常学級において特別な教育的支援を必要とする児童が一定数在籍していることを考えると、ASD 児が理解しやすい教材は、より多くの児童が理解しやすい教材になると考えられる。

## 6. 開発した教材

今回提案するワークシートは、①食べ物 (図 1)、②身につける物 (図 2)、③日用品 (図 3)、④非常用品 (図 4) のカテゴリー別に作成し、解答も用意した。ワークシート⑤ (図 5) は、授業のまとめである。

ワークシート①			ワークシート①答え		
( )年( )組( )番 名前( )			( )年( )組( )番 名前( )		
めあて：風や水のさい害にそなえて、どのような持ち物をじゅんぴする必要があるか考えてみよう。			めあて：風や水のさい害にそなえて、どのような持ち物をじゅんぴする必要があるのか考えよう。		
1. じゅんぴをしておく食べ物を選びましょう。必要だと思う物には○を、必要ないと思う物には×を記入しましょう。そして、そのように考えた理由を書きましょう。			1. じゅんぴをしておく食べ物を選びましょう。必要だと思う物には○を、必要ないと思う物には×を記入しましょう。そして、そのように考えた理由を書きましょう。		
食べ物リスト	必要：○ 必要ない：×	理由	食べ物リスト	必要：○ 必要ない：×	理由
① 水 			① 水 	○	・飲むことができる ・飲むこと以外に利用できる(手をあらう、体をふく)
② ジュース 			② ジュース 	×	・飲むこと以外には使えない
③ りんご 			③ りんご 	×	・長期ほぞんができない
④ チョコ 			④ チョコ 	○	・長期ほぞんができる ・エネルギーほ給ができる
⑤ キャラメル 			⑤ キャラメル 	○	・長期ほぞんができる ・エネルギーほ給ができる
⑥ おにぎり 			⑥ おにぎり 	×	・長期ほぞんができない
⑦ カンパン 			⑦ カンパン 	○	・長期ほぞんができる ・そのまま食べられる
⑧ かんづめ 			⑧ かんづめ 	○	・長期ほぞんができる ・そのまま食べられる

※イラストの一部は倉敷市「くらしきの防災」を使用している。  
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/138226/kurasikinobousaimatome.pdf>

図 1 ワークシート① (食べ物) と答え

ワークシート②  
( )年( )組( )番 名前( )

めあて:風や水のさい害にそなえて、どのような持ち物をじゅんぴする必要があるのか考えよう。

1. じゅんぴをしておく身につける物を選びましょう。必要だと思う物には○を、必要ないと思う物には×を記入しましょう。そして、そのように考えた理由を書きましょう。

身につける物リスト	必要:○ 必要ない:×	理由
① カッパ	<input type="checkbox"/>	
② 着がえ・下着	<input type="checkbox"/>	
③ ぼうし	<input type="checkbox"/>	
④ ヘルメット	<input type="checkbox"/>	
⑤ 手ぶくろ・軍手	<input type="checkbox"/>	
⑥ スリッパ	<input type="checkbox"/>	
⑦ スニーカー	<input type="checkbox"/>	
⑧ 長ぐつ	<input type="checkbox"/>	

ワークシート②答え  
( )年( )組( )番 名前( )

めあて:風や水のさい害にそなえて、どのような持ち物をじゅんぴする必要があるのか考えよう。

1. じゅんぴをしておく身につける物を選びましょう。必要だと思う物には○を、必要ないと思う物には×を記入しましょう。そして、そのように考えた理由を書きましょう。

身につける物リスト	必要:○ 必要ない:×	理由
① カッパ	○	・雨を防ぐ ・ぼう寒になる
② 着がえ・下着	○	・ぬれて体が冷えないようにする (カゼをふせく)
③ ぼうし	×	・落石や風で飛んでくる物から頭を守ることができない
④ ヘルメット	○	・落石や風で飛んでくる物から頭を守ることができる
⑤ 手ぶくろ・軍手	○	・作業をする時に使える ・ぼう寒になる
⑥ スリッパ	○	・ひなん所で使える(トイレなど)
⑦ スニーカー	○	・足を守る ・すべらない、ぬげない
⑧ 長ぐつ	×	・水が入ると重くなり動きづらくなる、 ・ぬげやすい

※イラストの一部は倉敷市「くらしきの防災」を使用している。  
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/138226/kurasikinobousaimatome.pdf>

図2 ワークシート②(身につける物)と答え

ワークシート③  
( )年( )組( )番 名前( )

めあて:風や水のさい害にそなえて、どのような持ち物をじゅんぴする必要があるのか考えよう。

1. じゅんぴをしておく日用品を選びましょう。必要だと思う物には○を、必要ないと思う物には×を記入しましょう。そして、そのように考えた理由を書きましょう。

日用品リスト	必要:○ 必要ない:×	理由
① タオル	<input type="checkbox"/>	
② マスク	<input type="checkbox"/>	
③ ウェットティッシュ	<input type="checkbox"/>	
④ トイレトペーパー	<input type="checkbox"/>	
⑤ ティッシュペーパー	<input type="checkbox"/>	
⑥ 歯みがきセット	<input type="checkbox"/>	
⑦ きゅう急セット	<input type="checkbox"/>	
⑧ ポリぶくろ	<input type="checkbox"/>	

ワークシート③答え  
( )年( )組( )番 名前( )

めあて:風や水のさい害にそなえて、どのような持ち物をじゅんぴする必要があるのか考えよう。

1. じゅんぴをしておく日用品を選びましょう。必要だと思う物には○を、必要ないと思う物には×を記入しましょう。そして、そのように考えた理由を書きましょう。

日用品リスト	必要:○ 必要ない:×	理由
① タオル	○	・体をふく ・ほつたいやシーツの代わりになる
② マスク	○	・家のかたづけてホコリをふせく ・ひなん所の感せんしょう対策になる
③ ウェットティッシュ	○	・水がなくても、手や体をふくことができる
④ トイレトペーパー	○	・トイレで使える ・ティッシュの代わりになる
⑤ ティッシュペーパー	×	・水にいけないので、トイレで使えない
⑥ 歯みがきセット	○	・口のなかを清けつにする
⑦ きゅう急セット	○	・ケガの手当てをする
⑧ ポリぶくろ	○	・バケツの代わりに水を入れる ・ぼう寒になる(ポンチョになる)

※イラストの一部は倉敷市「くらしきの防災」を使用している。  
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/138226/kurasikinobousaimatome.pdf>

図3 ワークシート③(日用品)と答え

ワークシート④

( )年( )組( )番 名前( )

めあて:風や水のさい害にそなえて、どのような持ち物をじゅんびする必要があるのか考えよう。

1. じゅんびをしておくひょう用品を選びましょう。必要だと思う物には○を、必要ないと思う物には×を記入しましょう。そして、そのように考えた理由を書きましょう。

ひょう用品リスト	必要:○ 必要ない:×	理由
① かい中電とう	<input type="checkbox"/>	
② かん電池	<input type="checkbox"/>	
③ スマートフォンのじゅう電器	<input type="checkbox"/>	
④ ラジオ(電池)	<input type="checkbox"/>	
⑤ ろうそく	<input type="checkbox"/>	
⑥ 家族の写真・連絡先	<input type="checkbox"/>	
⑦ ホイッスル	<input type="checkbox"/>	
⑧ ひょう用トイレ	<input type="checkbox"/>	

ワークシート④答え

( )年( )組( )番 名前( )

めあて:風や水のさい害にそなえて、どのような持ち物をじゅんびする必要があるのか考えよう。

1. じゅんびをしておくひょう用品を選びましょう。必要だと思う物には○を、必要ないと思う物には×を記入しましょう。そして、そのように考えた理由を書きましょう。

ひょう用品リスト	必要:○ 必要ない:×	理由
① かい中電とう	○	・電気がなくても使える
② かん電池	○	・電気の代わりになる
③ スマートフォンのじゅう電器	○	・電気の代わりになる
④ ラジオ(電池)	○	・電気がなくても使える ・情報を知ることができる
⑤ ろうそく	×	・ひなん所では使用できない
⑥ 家族の写真・連絡先	○	・家族とはぐれた時のかくにんのため
⑦ ホイッスル	○	・助けを求められることができる
⑧ ひょう用トイレ	○	・トイレがない時や水が出ない時に使える

※イラストの一部は倉敷市「くらしきの防災」を使用している。  
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/138226/kurasikinobousaimatome.pdf>

図4 ワークシート④(非常用品)と答え

ワークシート⑤

( )年( )組( )番 名前( )

2. じゅんびをしておく持ち物を、かくにんしましょう。必要な物と気をつけることを線をつけてみましょう。

	必要な物	気をつけること
食べ物	<input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> チョコ <input type="checkbox"/> キャラメル <input type="checkbox"/> カンパン <input type="checkbox"/> かんづめ	・飲むこと以外に利用できるか(手をあらう、体をふく)  ・ほぞんでできるか
身につける物	<input type="checkbox"/> カップ <input type="checkbox"/> 着替え・下着 <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 手ぶくろ・軍手 <input type="checkbox"/> スリッパ <input type="checkbox"/> スニーカー	・体をケガから守ることができるか  ・体を寒さから守ることができるか
日用品	<input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <input type="checkbox"/> トイレトペーパー <input type="checkbox"/> 歯みがきセット <input type="checkbox"/> きょう急セット <input type="checkbox"/> ポリぶくろ	・体を清けつにできるか  ・体をカゼや感せんしょうから守ることができるか  ・他にも使い道があるか

	必要な物	気をつけること
ひょう用品	<input type="checkbox"/> かい中電とう <input type="checkbox"/> かん電池 <input type="checkbox"/> スマートフォンのじゅう電器 <input type="checkbox"/> ラジオ(電池) <input type="checkbox"/> 家族の写真・連絡先 <input type="checkbox"/> ホイッスル <input type="checkbox"/> ひょう用トイレ	・電気がなくても使えるか ・水が出なくても使えるか ・家族とはぐれた時に確認できるか ・助けを求められることができるか

3. 持ち物をじゅんびするのに大切なことを、書きましょう。

★くらしき市の「災害への備え」のプリントには、ひなん所で2~3日間過ごす時に必要な物が書かれています。お家の人がじゅんびする物もあるので、いっしょにかくにんしましょう。  
 ★このワークシートといっしょにプリントを持ち帰って、ひなんする時に何を持っていくのかをお家の人と話し合います。また、自分が持つべき物も考えてみましょう。

※イラストの一部は倉敷市「くらしきの防災」を使用している。  
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/138226/kurasikinobousaimatome.pdf>

図5 ワークシート⑤(まとめ)

## 7. 考察

ワークシートは、児童が、風水害に備えて、どのような持ち物を準備する必要があるのかを考え、必要な物を自分で判断できるようになることを目的とした。なお、ここではワークシートのみを検討するため、TEACCH 自閉症プログラムの「視覚的構造化」との関連を中心に述べる<sup>†3)</sup>。TEACCH 自閉症プログラムの視点から工夫したのは、以下の点である。

### 7.1 持ち物の限定とカテゴリー分け

教材に関する先行研究で紹介した 3 つの教材は、いずれもイラストや文字で表示されている持ち物リストから、必要だと思う物を選ぶこと、選べる持ち物の数が制限されている点で共通している<sup>16-18)</sup>。持ち物の数が制限されているのは、実際に児童が持つことができる物には限りがあるためである。だが、ASD 児は、リストにある持ち物の数が多かったり、持ち物を選ぶ時にさまざまな基準で判断することを要求されたりすると、混乱し、理解が難しくなる可能性がある。そのため、持ち物と判断基準は限定して提示する必要があると考えた。今回、ワークシートのリストに載せた持ち物は、児童が実際に持って行くことができる物に限定し、大人が持つことが多い貴重品を除外した。そして、持ち物を、①食べ物 (図 1)、②身につける物 (図 2)、③日用品 (図 3)、④非常用品 (図 4) の 4 つのカテゴリーに分けて整理した。これらの工夫は、TEACCH 自閉症プログラムの視覚的整理統合化 (p.82-83) と一致する<sup>9)</sup>。また、4 つのカテゴリーに分けて整理することにより、物を選ぶ基準が明確になるため、ASD 児が理解しやすくなると考えた。

### 7.2 概念の視覚的な明確化

ワークシートの持ち物のリストは、文字とイラストとを一緒に表示し、ASD 児が視覚的に概念を理解できるよう工夫した。これは、TEACCH 自閉症プログラムの視覚的明確化 (p.83) と一致する<sup>9)</sup>。なお、イラストには、倉敷市の「くらしきの防災」のイラストを一部使用している<sup>19)</sup>。これは、同じイラストを使用することで、ASD 児が学校の学びを実際の生活と関連づけて考えられるようにするための工夫である。また、ワークシートには、避難時に必要だと思う物には○を、必要のないと思う物には×を一つずつ記入し、その理由を考えて書いてもらうようにした。○×の正誤で判断するのは、ASD 児が「一般的に規則や期待値を『白か黒か』で解釈する」(p.43)<sup>9)</sup>という特性を持つことから工夫した点である。そして、ワークシートは、持ち物を選ぶ判断基準の見本となる解答を用意し、児童が自分の予想した答えと見比べられるようにした。

### 7.3 実生活への応用

授業のまとめのワークシート (図 5) は、児童が、必要な持ち物のリストとして全体を視覚的に理解できるように、A3 の見開きで見ることを想定した。ワークシート①から④で一旦 4 つのカテゴリーに分けて整理した情報を、まとめの段階で視覚的に統合できるように順序立てたものである。これは、整理統合と順序立てに困難さがある (p.44-45)<sup>9)</sup>という ASD 児の特性への対応である。このリストを見れば、カテゴリーごとにどんな基準で物を選べばよいかを視覚的に理解できるように、リスト上の持ち物と選ぶ際に「気をつけること」とを



線で結んで確認できるようにした。そして、チェック欄を設け、実際に家で必要な物を揃える時に役立つよう工夫した。TEACCH 自閉症プログラムでは、一つの状況で学んだスキルや行動を他の状況で応用することを「般化」(p.45)<sup>9)</sup>と呼んでいるが、持ち物リストの一覧やチェック欄を設定することは、実生活への般化につながると考えられる。ただし、持ち物リストの一覧にあるすべての物を児童が持つことは現実的ではないため、ワークシートの注意事項に、家族が持つ物もあるので、一緒に確認することを明記している。

## 8. おわりに

本研究では、第4学年社会科の「自然災害から人々を守る活動」の単元のなかから「災害への備え」に注目し、TEACCH 自閉症プログラムの視点から、風水害に備えて、避難する時にどのような物を準備する必要があるのかを考えるワークシートを作成した。ワークシートで工夫したのは、以下の4点である。まず、リストに載せる持ち物の数を限定し、4つのカテゴリーに分けることにより視覚的整理統合を図った。次に、持ち物リストは文字とイラストを一緒に表示したり、選ぶ基準を見本で示したりすることで視覚的明確化を図った。そして、選ぶ基準を、○×の正誤で判断できるようにした。最後は、学習のまとめとして情報を統合し、視覚的に全体を見通せるリストを示すことにより実生活でも役立つようにした。

今後の課題としては以下の3点があげられる。まず、選ぶ物の基準を正誤で判断することの限界である。ワークシートに記載した持ち物の中には、ジュースやティッシュなど持ち物として必ずしも不適切ではないが、特定の用途にしか使えないため適切ではない物を、「必要ない」とした。前述したように、ASD児は「白か黒か」で解釈するため、「グレー」が存在しない。実際に授業で使用する際には、「より必要だと思う物を選ぶ」ように指導するなど、注意が必要である。次に、自分の好きな物を除外したことである。今回は、何が必要な物かを児童が判断できるようになることを目的としたため除外したが、災害が発生して実際に避難することになった場合、自分の好きな物やこだわりのある物を持って避難することは、ASD児にとって避難先での不安を軽減させることにつながるのと指摘もあるため<sup>20)</sup>、この点は考慮しておく必要がある。最後に、今回作成したワークシートは、実際に授業等で使用していないことがあげられる。ワークシートを実際に授業で使用することで、ワークシートの評価と今後の改善点を明らかにできると考える。

## 謝 辞

川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科小野寺昇教授、川崎医療福祉大学総合教育センター教職課程部門の須谷弥生助教には、教材を考える上で示唆に富む助言をいただいた。ここに感謝の意を表す。また、川崎医療福祉大学 TEACCH 部の諏訪利明准教授、小田桐早苗講師には、TEACCH の視点からみた授業上の工夫に関して有益な助言をいただいた。ここに感謝の意を表す。

## 注

- † 1) 文部科学省によれば、学校安全は、「生活安全」「交通安全」「災害安全（防災と同義）」の3つの領域からなる。そして、自ら安全に行動したり、他の人や社会の安全のために貢献したりできるようにすることを目指すのが「安全教育」であり、防災教育もそのなかに位置づけられる。
- † 2) 2017年告示の小学校学習指導要領解説社会編において、風水害は、「豪雨、洪水、がけ崩れや土石流などの土砂災害、突風や竜巻などによる災害」（p.61）を指している<sup>14)</sup>。
- † 3) TEACCH 自閉症プログラムの「視覚的スケジュール」に関する授業上の工夫としては、授業の流れを黒板やスクリーンで視覚的に示し、現在取り組んでいる項目が分かるように赤い矢印で示すことなどが考えられる。

## 文 献

- 1) 池田真幸, 永田俊光, 木村玲欧, 李泰榮, 永松伸吾: 全国で展開される防災教育教材の現状分析—学習指導要領との関係性を踏まえた今後の防災教育のあり方—, 地域安全学会論文集, 39, 103-111, 2021.
- 2) 文部科学省: 東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議中間とりまとめ. [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/sports/012/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2011/10/05/1311688\\_01\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/012/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/10/05/1311688_01_1.pdf), 2011. (2023.08.09 確認)
- 3) 文部科学省: 学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開. <https://anzenkyouiku.mext.go.jp/mextshiryou/data/saigai03.pdf>, 2013. (2023.08.09 確認)
- 4) 藤岡達也: 近年の自然災害に関する学校防災・危機管理の動向. 兵庫教育大学連合大学院・防災教育研究プロジェクトチーム, 近年の自然災害と学校防災, 協同出版, 東京, 2020.
- 5) 岡田夏美, 矢守克也: 学校防災教育を規定する4つのフレームワークに関する評価—クロスカリキュラム化をめざして—. 自然災害科学, 38巻2号, 241-256, 2019.
- 6) 文部科学省: 小学校学習指導要領 (平成29年告示). 日本文教出版社, 大阪, 2018.
- 7) 小貫悟: 改訂ポイントからみる「社会科授業のユニバーサルデザイン」. 社会科教育, 706, 4-9, 2018.
- 8) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課: 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について. [https://www.mext.go.jp/content/20230524-mext-tokubetu01-000026255\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230524-mext-tokubetu01-000026255_01.pdf), 2022. (2023.08.09 確認)
- 9) ゲーリー・メジボフ, ビクトリア・シェア, エリック・ショブラー編, 服巻智子, 服巻繁訳: TEACCH とは何か—自閉症スペクトラム障害の人へのトータル・アプローチ—. エンパワメント研究所, 東京, 2007.
- 10) 倉敷市災害に強い地域をつくる検討会: 倉敷市の災害に強い地域づくりについて—平成

- 30年7月豪雨災害を踏まえて一. <https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/138781/tiikiwotukuruhokokusyo.pdf>, 2021. (2023.08.09 確認)
- 11)倉敷市教育委員会保健体育課：倉敷市の防災教育全体構想図.  
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/151473/kousouzu.pdf>, 2022. (2023.08.09 確認)
- 12)倉敷市教育委員会保健体育課：第3学年防災教育学習指導案(総合的な学習の時間).  
[https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/151473/kura\\_syou3.pdf](https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/151473/kura_syou3.pdf), 2022. (2023.08.09 確認)
- 13)倉敷市教育委員会保健体育課：第5学年防災教育学習指導案(総合的な学習の時間).  
[https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/151473/kura\\_syou5.pdf](https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/151473/kura_syou5.pdf), 2022. (2023.08.09 確認)
- 14)文部科学省：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編. 5版, 日本文教出版社, 大阪, 2018.
- 15)橋本祥夫：第4学年の学習指導. 中西仁, 小林隆編, 初等社会科教育, ミネルヴァ書房, 京都, 109-123, 2021.
- 16)神戸学院大学現代社会学部社会防災学科：三日間生きぬくためには!? —非常用持ち出し袋を考えてみよう—指導要綱. [https://www.kobegakuin.ac.jp/files/education/faculty\\_social/bosai/activity\\_7.kateika.pdf](https://www.kobegakuin.ac.jp/files/education/faculty_social/bosai/activity_7.kateika.pdf), 発行年不詳. (2023.08.09 確認)
- 17)熊本県教育委員会：非常持ち出し袋を作ろう. <https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/65213.pdf>, 2018. (2023.08.09 確認)
- 18)宮崎賢哉：うさぎ一家のぼうさいグッズえらび. <https://note.com/kenyamiyazaki/n/n0b317a3e7676>, 発行年不詳. (2023.08.09 確認)
- 19)倉敷市：くらしきの防災. <https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/138226/kurasikinobousaimatome.pdf>, 発行年不詳. (2023.08.09 確認)
- 20)堀清和, 宮田美恵子, 村上佳司：発達障がいがある子の防災教育に求められる合理的配慮. <https://wawanowa.com/wp-content/uploads/2022/11/冊子%E3%80%80防災合理的配慮.pdf>, 2022. (2023.08.09 確認)

(2023年9月16日 受理)